

令和 8 年 7 月 24 日

小野市議会議長 喜 始 真 吾 様

総務文教常任委員会
安 達 哲 郎

行政視察報告書

先般、実施しました総務文教常任委員会行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 令和 8 年 7 月 8 日（水）～令和 8 年 7 月 10 日（金）

2 視察メンバー

安達哲郎 藤原章 川名善三 小林千津子 前田光教 山本悟朗
山本麻貴子 喜始真吾

3 視察先及び調査内容

- （１）東京都荒川区（人口：約 21 万 7 千人、面積 10.16Km²）
防災・防犯カメラネットワークシステム整備の取り組みについて
- （２）埼玉県行田市（人口：約 7 万 8 千人、面積：67.49Km²）
乗合型ＡＩオンデマンド交通「うきしろ号」について
- （３）東京都武蔵野市（人口：約 14 万 8 千人、面積 10.98Km²）
武蔵野クリーンセンターおよびむさしのエコ r e ゾートについて

4 調査結果

【第 1 日】

東京都荒川区 （人口 21.7 万人 面積 10.16Km²）

≪視察項目≫

防災・防犯カメラネットワークシステム整備の取り組みについて

≪視察内容≫

1：防災カメラの設置（31 台）

- 災害発生時に速やかに被災状況を把握し、避難指示等に繋げる為、区内の緊急輸送道路周辺に、500m間隔で 31 か所の整備
- 停電時でも稼働できるよう、72 時間バッテリーの搭載
- ネットワーク化による遠隔でのズームや 360 度操作が可能

2：A I 防犯カメラの設置（33 台）

- 行方不明児童や認知症の方の搜索を主体として緊急性の高い事案の早期解決を図る目的で、「顔識別機能」を搭載したA I カメラを整備。
- 先進的な取り組みである為、A I の識別に関して、天候や時間帯、設置角度が、顔データの検知精度に与える影響を分析する。

3：ネットワークシステムの構築

- 防災カメラと防犯カメラをネットワーク化し、クラウド上で一括管理

4：調査事項

★防犯カメラの設置によるプライバシー、セキュリティ対策について

- ・個人情報の取扱いは「個人情報保護に関する法律」のガイドラインに準拠し、利用目的を限定し厳格な基準を設置。保存期間は7日間とし、閲覧できる人間を3名に限定。管理・運用を徹底している。
- ・A I 防犯カメラは、行方不明者児童の搜索などの緊急時案に特化しこの目的にのみ利用。A I 顔識別システムの閲覧は、電子媒体の盗難や紛失を防ぐため、常時施錠されている執務室で、複数人で作業を行う。

★設置時の住民説明や合意形成について

- ・A I 防犯カメラについては、実証エリアの各町会の皆様に丁寧に事業説明を行い、了承を得た上で設置。防災カメラについては、専用柱の設置にあたり関係部署や警察等の関係機関と緊密な調整を行い、地元町会の皆様に対し丁寧な説明を行った。概ね理解は得られたが、一部反対意見もあり、その箇所については強制せず、再度場所の選定を実施した。

★設置総額・維持費について

設置総額：	約 1 億 8,700 万円（国庫補助あり）		
維持管理費：	約 1,125 万円		
	防災カメラネットワークシステムライセンス費	15 万円/1 台	
	A I 顔識別機能システムライセンス費	20 万円/1 台	

★防犯カメラの設置にかかる警察との連携について

区内 3 警察署と定例の実務者会議を月 1 回行い、情報を共有。災害時や緊急時において防災カメラを閲覧できる体制を構築するため、協定締結を視野に協議を重ねる。

★A I 防犯カメラの具体的な活用方法について

A I カメラは活用目的を「行方不明児童や認知症の高齢者の方等の搜索」といった、緊急性が高く、人命に関わる事案のみに限定。

★その他

- ・荒川区では、他に区が設置している防犯カメラが 500 台、町会が設置している防犯カメラが 500 台ある。
- ・小野市と同じく青パト運行を 3 台体制で主に午後 1 時から翌午前 5 時まで 365 日実施。
- ・荒川区の刑法認知件数は少なく、犯罪の多くは自転車盗難が占める。
- ・A I 顔識別を、犯罪の情報提供として使うには法的な課題がある。

<所感>

防災カメラと A I 防犯カメラのネットワーク化の実証実験を先進的に実施する荒川区の取組は、ネットワークで一括管理をすることによって、情報収集や解析の時間短縮と、A I を駆使することにより作業効率の向上に繋がり、遠隔で操作ができるので、災害時に現場に足を運ばなくても、ズーム機能などを使い、現状を把握でき、とても便利だと思いました。ただ、A I 顔識別は個人情報保護の関係もあり、事件が起こった場合に情報提供するには、法の改正などの高いハードルがあるように感じました。

荒川区は小野市の 1/10 の面積ですごく小さな区ですが、その中で、区と町会が設置している防犯カメラの設置台数が 1,000 台あるのに驚きました。荒川区の刑法認知件数は非常に少ないと聞き、防犯カメラが一定の犯罪抑止効果になっているのは間違いないと思いました。小野市と荒川区では環境が違いますが、非常に参考になることをお聞かせいただきましたので、これからの市政に反映していきたいと思いました。

【第 2 日】

埼玉県行田市 （人口 約 7 万 8 千人、面積 67.49Km²）

≪視察項目≫

乗合型 A I オンデマンド交通「うきしろ号」について

（行田市の地域公共交通の状況）

- (1) 鉄道 ： 都心と 1 時間程度で結ぶ秩父鉄道・市の中央部を走る J R 高崎線
- (2) 路線バス：吹上線・真名板線・犬塚線・葛和田線（市の東部・南東部を運行）
- (3) 市内循環バス： 西循環コース・南大通り線コース・観光拠点循環コース

路線バスを補完する形で平成7年に運用を開始。市内全域を6路線で運行していたが、令和7年3月31日で3路線を終了し3路線に再編。運賃も200円に改正。

(4) 自転車シェアサイクル

観光や通勤にも利用可能な「ワイルドナイツサイクルシェアリング」を官民連携で開始。熊谷市内でも利用・返却が可能。年間貸出回数は延べ1,636回。

(5) タクシーライドシェア

夜間における移動手段に困難が生じており、円滑な移動の確保の為、夜間の移動手段として、令和6年12月より開始。台数は2台。年間運行回数は179回。

(6) デマンドタクシー（令和6年12月28日をもって運行終了）

75歳以上の高齢者及び障害をお持ちの方の移動手段を確保するため、平成29年に運行を開始。利用料金は移動距離変動制（最大で2,000円、最小500円）

地域公共交通の再編

- （現状）・市内循環バスは利用者が少ない、「空気を運んでいるだけ」という声
- ・運行本数が少ない
 - ・利用したい時間に運行していない
 - ・・・などの意見が多数

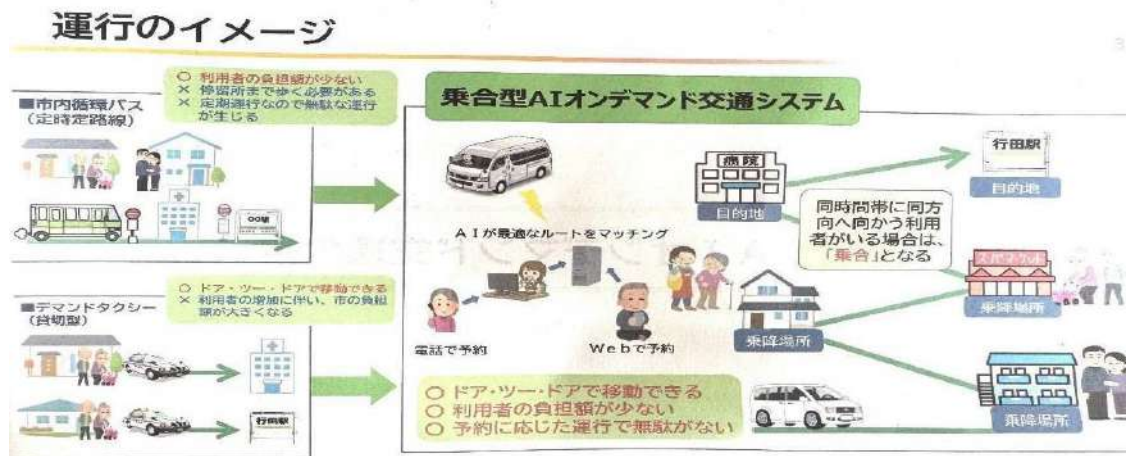
さらに

- ① 行田市の高齢化率は31.8%で県平均の1.2倍と高く、生活の足としての公共交通のニーズ増がますます見込まれる
- ② 2024年からの自動車運転業務に従事する者の時間外労働の上限規制により、ドライバー不足が深刻化している
- ③ 現行の市内循環バスでは利用者も少なく、収支率が悪い路線がある



便利で 愛される 持続可能な 地域公共交通の実現へ

乗り合い型 AI オンデマンド交通「うきしろ号」



（視察先提供資料より引用）

<その他「うきしろ号」活用事例>

- ・学童送迎支援事業
- ・通いの場乗り合い型 AI オンデマンド交通利用助成事業
- ・乗ってみよう！夏のおでかけ応援事業

<所感>

行田市の交通政策についてとても勉強になりました。人口規模や地理的要因に多少の違いはありますが、抱える問題は同じなのだと思います。行田市でも市内循環バスを早くから導入されていましたが、少子高齢化による影響もあり、ますます公共交通の必要性が叫ばれる中、昨年度より AI オンデマンド交通を導入されました。一年の実証実験を経て本格運行されています。まだ本格運行をしてから期間は経っていませんが、見えてきた成果や課題を教えていただき、この10月からAI オンデマンド交通の実証実験を開始する当市にとって、非常に勉強になることばかりでした。めまぐるしく動く現代社会において、公共交通政策というのは最重要課題と認識しています。この視察で学んだことを市政に生かしていきたいと思います。

【第3日】

東京都武蔵野市（人口 約14万8千人 面積 10.98Km²）

≪視察項目≫

武蔵野クリーンセンターおよびむさしのエコr e ゾートについて

≪視察内容≫

～武蔵野市の歩み～

- 1955年 武蔵野市と三鷹市で武蔵野三鷹地区保健衛生組合を設立
- 1958年 ふじみ焼却場を三鷹市新川に建設、共同でゴミ焼却を開始
- 1970年 隣接の調布市民から煙・騒音など公害防止の陳情
- 1971年 炉の操業停止を求め、ピケにより武蔵野市のごみ搬入を阻止
- 1973年 「武蔵野市内にゴミ処理工場を設ける方向で努力する」と市長が言及

↓

「武蔵野方式」と呼ばれる市民参加の議論により用地選定を行い、市営グラウンドに新設を決定

- 1984年 旧クリーンセンター竣工 稼働開始（～平成28年まで32年間稼働）
- 2008年 新クリーンセンター施設基本構想
新施設まちづくり検討委員会
- 2010年 新施設基本計画策定委員会
- 2012年 PFI法に準拠した事業者選定→契約

市民参加による議論・合意形成

<武蔵野クリーンセンター>

- ① 環境の保全に配慮した安心・安全な施設づくり
 - ・ 全国トップレベルの環境排ガス基準値の設定
 - ・ 高効率発電システムの導入
- ② 災害に強い施設づくり
 - ・ 耐震安全性の分類は「構造体Ⅱ類」を満足する設計
 - ・ 災害・非常時にも対応できる「自立・分散型地域エネルギー供給拠点」
(ガスタービン発電最大 1,500KW)
- ③ 景観及び建築デザインに配慮した施設づくり
 - ・ 武蔵野の雑木林をイメージした景観及び建築デザイン
 - ・ 建物の高さを 15m に抑え、凸凹をなくしたコンパクト設計
- ④ 開かれた施設づくり
 - ・ 予約なしで自由に見学できる見学者コース・自由に入れるオープンスペース



武蔵野クリーンセンター

↓
環境イベント「エコマルシェ・gomi pit・ワークショップ等」を開催
「自立・分散型地域エネルギー供給拠点」

昨今、廃熱ボイラや蒸気タービンの技術進歩により、小規模ごみ処理施設へも高効率発電設備の設置が可能となり、ごみ発電設備の評価が高まっている。また、エネルギー供給の安定性・信頼性の確保が課題となり、「自立・分散型のエネルギー供給拠点の必要性」が高まっている



「廃棄物エネルギーの利活用」へ

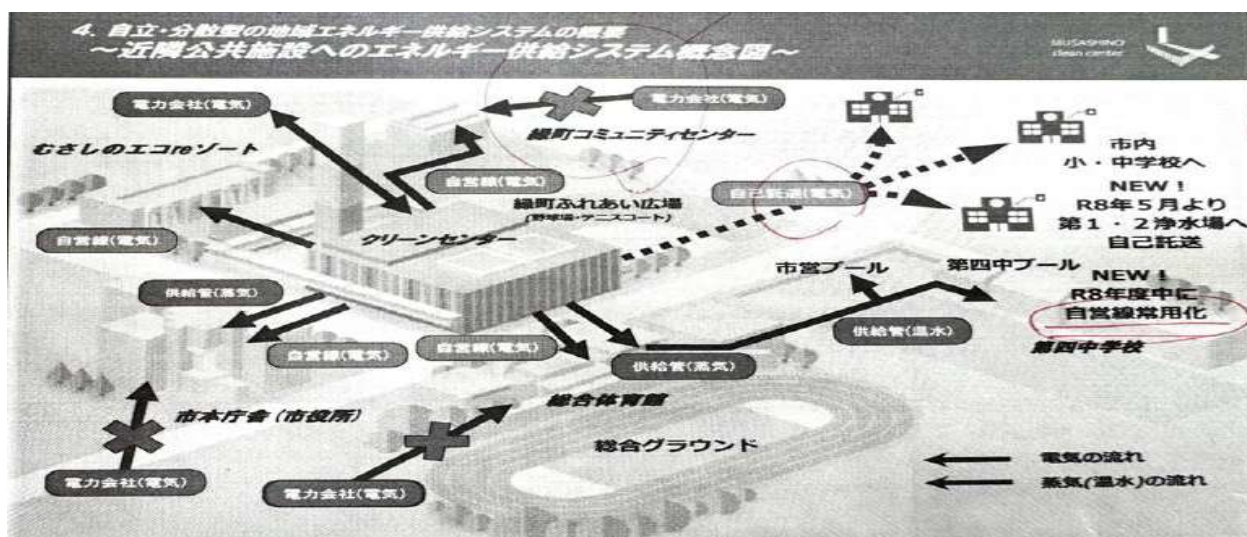
◇基本方針◇

- ・ 市の複数の公共施設が隣接する好立地であることにより、廃棄物エネルギーの廃熱を新施設単独のエネルギー源として考えるのではなく、近隣公共施設への「地域エネルギー供給センター」として位置づけ。
- ・ 災害等の非常時にもエネルギー供給できるシステムを構築し、公共施設の防災拠点としての機能維持を可能とする



「取り組み」

- ★近隣公共施設（市庁舎・総合体育館・緑町コミュニティセンター・エコリゾート）に、電気（自営線）＋蒸気（供給管）→「熱電」を連続的に行う。
- ★常用時・災害時の自立性を高める目的から、ごみ発電機（蒸気タービン）＋常用兼非常用発電機（ガス・コージェネレーション設備）を導入。



(視察先提供資料より引用)

<おさしのエコリゾート>

ごみ処理施設「武蔵野クリーンセンター」の旧建物の一部をリノベーションした市民参加型施設。

旧クリーンセンター建設にかかる市民参加の歴史を継承し、市民や市民団体、事業者、関係機関、市などの多くの主体が一緒になって、運営や活用方法、プログラムなどを検討している。

- ① 「環境の学校 連続講座」・・・環境啓発の担い手として活躍できる人材支援
- ② 「環境の学校PRプロジェクト」・・・効果的な情報発信について検討し、広報ツールを制作



市民参加の活動の場を提供



《所 感》

武蔵野クリーンセンターの視察では、建設に至るまでの歴史や課題、廃熱を利用した「地域エネルギー供給センター」としての役割などを学ぶことができました。市街地にゴミ処理施設があることの強みを生かし、廃熱を利用した熱源を、市役所や学校などの公共施設へ送電されていたり、非常事態(災害等)の際に電力網が途絶えた際でも自家発電をすることが可能なシステムを導入されていたりと、とても勉強、参考になりました。旧ゴミ処理施設も、ただ解体するのではなく、一部をリノベーションし、「むさしのエコreゾート」という施設にすることで、市民の環境に対する意識を高める仕組みづくりをされていることにも関心いたしました。

当市でも新ごみ処理施設の建設が控えており、小野市は3市合同でのごみ処理施設でありますので、武蔵野市さんと同様なことができるかは分かりませんが、熱源の利用など、参考にできる部分は多々ありましたので、この視察で学んだことを生かしていけたらと思いました。

令和8年 7月23日

小野市議会議長 喜始 真吾 様

総務文教常任委員会
藤原 章

行政視察報告書

先般実施しました、総務文教常任委員会行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日

令和8年7月8日（水）～令和8年7月10日（金）

2 視察メンバー

委員長・安達 哲郎 副委員長・藤原 章

委員・山本麻貴子 前田光教 山本悟朗 小林千津子 川名善三 喜始真吾議長

3 視察先及び調査内容

- （1）7月 8日（水） 東京都荒川区
防災・防犯カメラネットワークシステム整備の取組について
- （2）7月 9日（木） 埼玉県行田市
乗合型AIオンデマンド交通「うきしろ号」について
- （3）7月10日（金） 東京都武蔵野市
武蔵野クリーンセンター及び「むさしのエコr eゾート」について

4 調査結果

【第1日】

《視察先》

東京都荒川区 面積 10.16km² 住民基本台帳人口 222,278人

《視察項目》

防災・防犯カメラネットワークシステム整備の取組について

《視察内容》

荒川区には現在、区が設置した防犯カメラが約500台あり、地域の諸団体が設置したものが約500台あって、個人が設置したものを加えると相当の数に上ります。

それに加えて今回は1年間の実証実験として360度操作が可能な防災用カメラを31台、顔識別機能を搭載したAI防犯用カメラを33台を設置し、クラウドシステムに接続してネットワーク化を図り、庁舎での閲覧体制を構築して、災害発生状況の掌握や対応、行方不明者の捜索、犯罪防止などの効果を検証するということでした。

防災カメラは停電時でも稼働できるように72時間分のバッテリーを搭載し、遠隔操作で360度操作が可能で、区内の緊急輸送道路周辺に約500m間隔で設置することです。

防犯カメラはエリアを2つの駅周辺に限定し、既存のカメラをAI防犯カメラに交換し、遠隔操作によるズームや360度操作が可能とのこと。AI顔識別システムは先進的な取組であるため、実証実験を通じて効果を検証することでした。

ネットワーク化はクラウド上で一括管理し、庁舎の専用PCで閲覧できるので、災害時や行方不明者捜索の対応を効率化できると期待されることでした。

《所 感》

面積10.16km²という狭い地域の中に、かなりの数の防犯カメラが設置されており、さすが都会だと感心しました。防犯上も一定の効果を上げていると思われます。

最近は認知症対策が大きな課題になっていますが、顔認識機能搭載のAI防犯カメラは認知症などで行方不明になった場合の捜索に重要な役割を果たすのではないかと期待されます。なお、荒川区では共同住宅や戸建て住宅を対象にした防犯カメラ等の購入・設置に対する補助制度があるようです。防犯カメラは顔認識機能搭載のAI防犯カメラを活用するだけに、個人情報の取り扱いには厳重に注意していただきたいと思いました。

防災カメラは災害に至る状況や災害が発生する状況が刻一刻とカメラで見ることができるのは対策を取る上で大変有効だと思います。当然、行政としては現地を見て対応を考えることが大切ですが、現場とカメラの情報を総合して対策ができるようになる効果は大きいと思いました。小野市は加古川水系の洪水の心配がありますが、一考の余地はあるように思います。

【第2日】

《視察先》

埼玉県行田市 面積67.49km² 住民基本台帳人口77,854人

《視察項目》

乗合型A I オンデマンド交通「うきしろ号」について

《視察内容》

行田市は鉄道の駅が1つで、路線バスがありますが、比較的に公共交通が少なく、高齢人口の増加、免許返納者の増加もあり、「足の確保」が重要な課題になっていました。今までも「市内循環バス」「日本版ライドシェア」「デマンドタクシー」など様々な対策が取られてきましたが、高齢化率の増加、ドライバー不足、収支の悪化、市民の不満の声もあり、公共交通の再編に取り組んでおられます。

今回視察した「乗合型A I オンデマンド交通『うきしろ号』」は令和7年1月より実証運航を行い、令和8年1月より本運行が開始されました。これは予約に応じて最適なルートをA I が選定し、同じ時間帯に同じ方向に向かう利用者が乗り合わせる乗合型の公共交通で、民間のタクシー業者の協力を得て実施されています。利用料金は一般600円、高齢者・運転免許返納者500円、障がい者・妊産婦・小中学生300円、未就学児は無料です。利用できる人は行田市に住民票のある人は誰でも可能で、登録制になっています。予約は利用日の7日前から利用時間の45分前まで可能で、電話、ウェブ、ライン、FAXで予約できます。当面は4台で運行する予定とのことです。

実際にタクシー会社で対応されている状況も視察しましたが、電話等で予約を受けて、専用のパソコンに入力すると、指定された乗車時間、降車時間に合うようにA I が判断し、配車の手配ができるという事でした。うまくいっているように感じました。

《所 感》

今回の視察には元参議院議員の女性市長から直接ご挨拶をいただきました。

小野市もらんらんバス、らんらんタクシーなど高齢者や子どもたちをはじめとした市民の「足の確保」に積極的に取り組んできましたが、まだ満足とは言えないと思います。今年からA I を活用した乗合型オンデマンド交通の実証運行に取り組みますが、行田市の経験は貴重な参考になると感じました。

実施は民間のタクシー会社をお願いしていますが、視察も受け入れていただき、大変協力的な雰囲気でした。

また行田市は『うきしろ号』の実施に合わせて「市内循環バス」の整理や「デマンドタクシー」を廃止するとされていましたが、本当にどういう形がいいのか、近隣や全国の実験も学び、研究する必要があると感じました。

【第3日】

《視察先》

東京都武蔵野市 面積 10.98km² 住民基本台帳人口 148,034人

《視察項目》

武蔵野クリーンセンター及び「むさしのエコr e ゾート」について

《視察内容》

(武蔵野クリーンセンター)

武蔵野クリーンセンターは武蔵野市役所に隣接し、総合体育館、小学校、中学校、中央公園などに囲まれた、まさに街の真ん中にあることにまず驚きました。昭和59年に開設され、同じ敷地で建て替えられて、現施設は平成29年(2017年)に稼働を開始しています。運営方式はDBO方式(公設民営)で、1日120トン(60トン2基)処理できます。併せて不燃・粗大ごみ処理施設を備え、危険・有害ごみも処理しています。東日本大震災の教訓を踏まえて耐震安全性を強化し、外観は武蔵野の雑木林をイメージしたというデザインで景観の調和が図られています。また見学コースは2階を1周するとごみ処理の流れが理解できるようになっており、予約なしに自由に見学できる開かれた施設になっています。

廃熱利用は「ごみ発電」で、単に売電するのではなく、近隣公共施設の「地域エネルギー供給拠点」として位置づけられています。蒸気タービン発電とともに、常用兼非常用発電機(ガスコージェネレーション設備)も備えています。

(むさしのエコr e ゾート)

クリーンセンターの建て替えに伴い、旧施設の一部を改修して環境啓発施設にしています。気候変動や地球温暖化を踏まえ、ごみをはじめ資源、エネルギー、緑、水、生物多様性など環境問題を市民、企業、行政などが一緒に考え、学びあいながら、行動につなげていく拠点として運営されています。市民からは「環境の大切さを学んだ」「気づきのきっかけとなった」などの声が寄せられているとのことでした。

《所 感》

武蔵野クリーンセンターでは廃熱利用について、発電を柱として「地域エネルギー供給拠点」と位置づけられており、市役所をはじめとした公共施設に配電して非常時の備えもされていることが新鮮な驚きでした。私たちの場合は3市の共同運営なので課題も多いと思いますが、廃熱利用について、温水プールの他にももっと多彩に考えてもよいのではないかと思います。

「むさしのエコr e ゾート」はクリーンセンターという特性を生かして、環境保護活動の拠点を作ったことは重要な発想であったと思いました。環境保護の視点は今後の重要な視点ではないかと思います。

令和 8 年 7 月 24 日

小野市議会議長 喜始 真吾 様

総務文教常任委員会
山本 麻貴子

行政視察報告書

先般、実施しました総務文教常任委員会視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 令和 8 年 7 月 8 日（水）～令和 8 年 7 月 10 日（金）

2 視察メンバー

委員長 安達哲郎

副委員長 藤原章

委 員 前田光教、山本悟朗、小林千津子、川名善三、喜始真吾（議長）、
山本麻貴子

3 視察先及び調査内容

（１）東京都荒川区 （人口：約 21 万 7 千人、面積：10.16 ㎢）
防災、防犯カメラネットワークシステム整備の取組について

（２）埼玉県行田市 （人口：約 7 万 9 千人、面積：67.49 ㎢）
乗合型 AI オンデマンド交通「うきしろ号」について

（３）東京都武蔵野市 （人口：約 14 万 8 千人、面積：10.98 ㎢）
武蔵野クリーンセンター及びむさしのエコ re ゾートについて

4 調査結果

【第1日】

《視察先》

東京都荒川区 （人口：約21万7千人、面積：10.16 km²）

《視察項目》

防災、防犯カメラネットワークシステム整備の取組について

《視察内容》

荒川区は、日本で初めて、区が管理するすべての公園・児童遊園等に防犯カメラを設置した自治体である。令和5年度末時点で、区が設置した街頭防犯カメラ約331台、町会・商店街など地域団体が設置した街頭防犯カメラ約526台に加え、公園・児童遊園等に248台の防犯カメラが設置されており、区内には合計約1,100台の防犯カメラが運用されている。（引用：荒川区HP）

荒川区は人口密度が日本で3位。下町情緒あふれる街なみが魅力的である。
令和8年4月より実証実験が始まっており、詳細について視察させていただいた。

①防災カメラの設置 31台

- ・災害発生時に被災状況を把握し、避難指示等につなげるため
- ・区内全域の緊急輸送道路周辺に防災カメラを500m間隔、31箇所整備
- ・停電時でも稼働できるよう72時間のバッテリー搭載（専用柱）
- ・ネットワーク化により、遠隔でのズーム、360度操作が可能
- ・平時は防犯カメラとして活用する
- ・防災訓練等を通じて災害時の運用体制を強化

②AI防犯カメラの設置 33台

- ・行方不明児童や認知症の方の捜索など、緊急性の高い事案の早期解決を図る。
- ・実証エリアを日暮里駅から西日暮里駅周辺に限定。
- ・既存の防犯カメラをAI防犯カメラに交換、遠隔でのズーム、360度操作が可能。
- ・警察への問合せが多い行方不明児童や認知症の方の捜索において活用する予定。
- ・行方不明児童に関しては、保護者から顔データ照会に関して依頼があった場合のみ。
- ・専用端末で閲覧できる職員は3名に限定。

③ネットワークシステムの構築

- ・防災カメラと実証エリアのAIカメラをネットワーク化
- ・クラウド上で一括管理、庁舎の専用PCでの閲覧体制を構築
- ・防災カメラとAI防犯カメラの故障確認（常時）
- ・遠隔での映像確認により、災害時や行方不明者捜索の対応を効率化

実証実験は1年間を予定されており、現在4ヶ月目であることから現在までの現状や課題などについても聞いた。

設置総額及び年間の維持管理費（更新費用含む）について。

- ・設置総額：187,093,995 円（契約金額）
- ・維持管理費：約 1,125 万円
- ・防災カメラ（31 台）ネットワークシステムライセンス費
約 15 万円/年 × 31 台 = 465 万円
- ・AI 顔識別機能システムライセンス費
約 20 万円/年 × 33 台 = 660 万円

耐用年数：7 年

《所 感》

クラウドシステムで防犯カメラ、AI 防犯カメラをネットワーク化することにより、専用端末で個々のデータを確認することが容易にでき、行方不明の児童や認知症の方などの捜査では効果が期待されるものである。視察の時点では、実際の捜索が必要になった事案は無いということだが、職員を使った模擬捜査実験では 60～80%の精度で顔認識できたことを確認した。

クラウドシステムを使うことにより個々の防犯カメラのデータを一元管理できることは非常に効率的であるが、費用が高額になることから適正なカメラ台数を検証していく必要があると感じた。実証実験終了後の結果にも注目したい。

【第2日】

《視察先》

埼玉県行田市 （人口：約7万9千人、面積：67.49 km²）

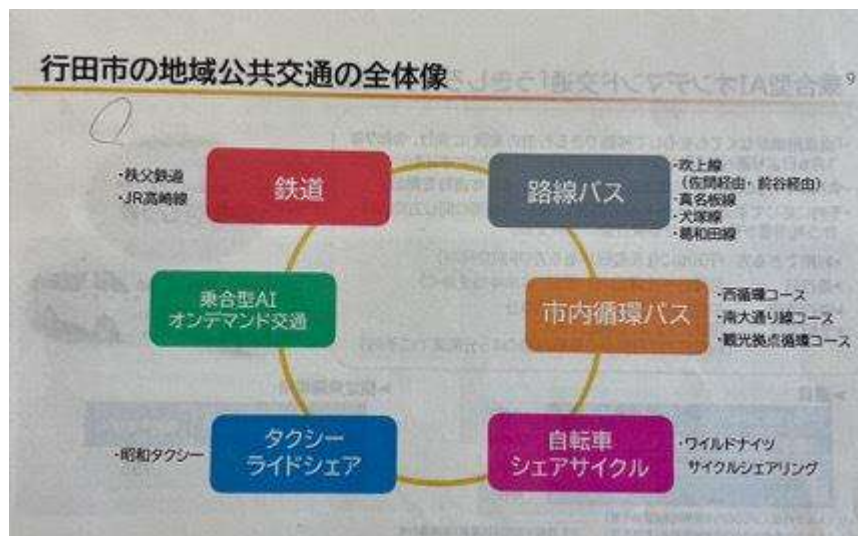
《視察項目》

乗合型 AI オンデマンド交通「うきしろ号」について

《視察内容》

現在の行田市の地域公共交通は、鉄道（秩父鉄道・JR 高崎線）、路線バス、市内循環バス、乗合型 AI オンデマンド交通、タクシー、自転車シェアサイクル。

市内公共交通の現状と、令和 7 年より運行始められた乗合型 AI オンデマンド交通について詳しく説明いただく。



(視察先提供資料より引用)

市内循環バス ・ 運賃

- ・平成 7 年 4 月 / 6 路線で運行を開始。(当時無料)
- ・平成 15 年 4 月 / 運賃有料化 (1 回 100 円、未就学児及び障がい者：無料)
- ・平成 29 年 4 月 / 運賃の見直しを実施
利用の多いコースを値上げ (100 円→150 円)
利用の少ないコースは据え置き (100 円)
無料対象者を拡充し、「75 歳以上の者」を加える
- ・令和 7 年 4 月 / 6 路線を 3 路線に再編。
運賃改定 150 円→200 円
キャッシュレス決済を導入
- ・令和 8 年 1 月 / 「バスロケーションシステム「BusGO！」を導入。
※スマホやパソコン上で、バスの位置情報がわかる！

運行日：年末年始 (12/29～1/3) を除く毎日

無料対象者：75 歳以上の市民、未就学児、障がい者及び介助者 1 名

市内循環バスを持続可能な公共交通として維持していくために運賃改定を実施。

デマンドタクシー (※令和 6 年 12 月終了)

- ・市内循環バス、路線バス停留所までの移動が困難な 75 歳以上の高齢者及び障害をお持ちの方移動手段を確保するため平成 29 年に開始したが、令和 6 年 12 月をもって運行終了。利用料金はタクシーメーター料金により、自己負担額は 500 円～2,000 円。

乗合型 AI オンデマンド交通

- ・令和 7 年 1 月 6 日 / 実証運行開始

～自家用車がなくても安心して移動できる行田の実現～

- ・令和 8 年 1 月 6 日 / 本運行開始

○導入にあたり、交通施策の見直しがされた。

- ・市内循環バス、利用者が少ない路線廃止 → 乗合型 AI オンデマンド交通へ
- ・デマンドタクシー廃止 → 乗合型 AI オンデマンド交通へ

車両：4 台で運行

- セダン型（定員 4 名）※シエンタ：1 台
- ワゴン型（定員 6 名）※ノア：2 台
- 車椅子対応車（定員 8 名）※ハイエース：1 台

1 回あたりの運賃：600 円～無料

- ・一般 / 600 円
- ・75 歳以上の高齢者、運転免許証自主返納者 / 500 円
- ・障がい者、妊産婦、小中学生 / 300 円
- ・未就学児 / 無料

乗合型 AI オンデマンド交通とは

予約に応じて最適なルートを AI が選定し、同じ時間帯に同じ方向へ向かう利用者が乗り合わせる乗合型の公共交通。

- ・利用には事前登録が必要 → 令和 8 年 3 月時点の利用登録は 6,399 人（増加）
- ・（旧）デマンドタクシーの利用者はスライドして登録者となっている。

予約方法 電話、ウェブ、ライン、FAX による事前予約制

※予約は利用日の 7 日前から利用時間の 45 分まで。

予約センターに電話が入ると、オペレーターが対応し予約可能な時間をお知らせして合意できれば成立となる！

電話受付は 7:30～18:30 だが、ウェブ予約と LINE 予約は 24 時間受付可能！

「オンデマンド交通は、タクシーではない」と利用者に認識してもらうことが必要

- ・乗り合わせて遠回りしながら目的地まで運行する
 - ・乗車するためには事前予約が必要（利用日の 7 日前から 45 分前まで）
 - ・乗降は自宅もしくは指定乗降場所に限られる
- 制約がある代わりに、同様の民間サービスよりも安価で利用できる

《所 感》

行田市では乗合型 AI オンデマンド交通「うきしろ号」導入にあたり、乗車率の低いコミュニティバス路線とデマンドタクシー事業を廃止された。「うきしろ号」の 1 日平

均運行回数は62.12回、乗合運行率は平均22.42%。乗合率は想像していたより低いイメージだったが、20%という数字は他の自治体の同様の事業と比較すると高い水準とのこと。

そうなると大きな車より、セダン型の方が経費削減になるのではと感じた。(小野市では10人乗りハイエース1台の予定)

この夏、子どもさんを対象にイベント(スタンプラリー)を開催予定とのこと。塾、図書館、公園などへ子どもだけでも安全に行くことができるという移動の選択肢を、親にも関心をもってもらえるきっかけとして、いい取り組みだと感じた。

予約センターでは、AIシステムが予約を判断し実際の運行表を組み立てるところを見学。運行当日、運転手はAIが作成した運行表のとおり配車する。AIの得意分野なのか、余計な感情が入らない分すごくシンプルでした。

今後、小野市で始まる実証運行がより良いものになるよう、また今後の公共交通について調査、研究したいと思います。



行田市の行田邦子(こうだくにこ)市長

【第3日】

《視察先》

東京都武蔵野市 (人口：約14万8千人、面積：10.98km²)

《視察項目》

武蔵野クリーンセンター及びむさしのエコreゾートについて

《視察内容》

武蔵野クリーンセンター

事業主体／市単独 （一部事務組合ではない）

事業方式／DBO 方式（設計＋建設＋運営 20 年間の包括）

焼却施設／全連続燃焼ストーカ式 1 2 0 t/日（6 0 t / 2 炉）

余熱利用方式／ごみ発電＋所内及び近隣公共施設への電力・蒸気利用

ごみ発電／抽気復水タービン 最大出力 2 6 5 0 kW

武蔵野クリーンセンターのコンセプト ～まちに溶け込み、まちにつながる～

①環境の保全に配慮した安全・安心な施設づくり

全国トップレベルの廃ガス規制値をクリアする安全・安心なシステム

②景観及び建築デザインに配慮した施設づくり

武蔵野の雑木林をイメージ！外装材はテラコッタルーバ、壁面緑化。

③災害に強い施設づくり

大地震にも強い耐震設計。災害時エネルギー供給拠点としての機能。

④開かれた施設づくり

ごみ処理の流れを自由に見学。

ガス・コージェネレーション設備

災害などで電力の供給が止まった時に、自力でセンターを稼働させ、焼却を行うとともに、近隣施設に電力を供給する。



むさしのエコ re ゾート (MUSASHINO eco reSort)

ごみ処理施設「武蔵野クリーンセンター」の旧建物の一部をリノベーションして整備。

旧クリーンセンター建設にかかる市民参加の歴史を継承し、市民はじめ事業者、関係機関、市などの多くの主体と一緒に運営、活用方法を検討している。令和8年4月から運営を委託している。令和7年度の来館者数は113,766人。学校の社会科見学の受け入れや、出前授業なども行う。地域の環境学習やコミュニティの拠点として定着してきている。



むさしのエコ re ゾート内

《所 感》

市街地の中にあるクリーンセンター。大きな街路樹が印象的で、まさに武蔵野の森。隣接するむさしのエコ re ゾートと合わせて環境学習の拠点となっており、ごみや環境について学べる仕組みができています。この日も小さな子どもさんの姿があった。

発電した電気はクリーンセンターだけでなく、市役所や総合体育館をはじめとする周辺公共施設に供給される。また市内小中学校にも自己託送で電気を供給するシステムを構築されている。

ごみ処理に関する武蔵野市の歴史がしっかり継承され、現在市民参加によるまちづくりが続けられているのだと感じた。

大変学びになる視察でした。ありがとうございました。

令和8年7月24日

小野市議会議長 喜 始 真 吾 様

総務文教常任委員会 前 田 光 教

行政視察報告書

先般、実施しました議員派遣行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日

令和8年7月8日（水）～ 令和8年7月10日（金）

2 視察議員（総務文教常任委員会）

安達哲郎（委員長） 藤原章（副委員長） 山本麻貴子 前田光教
山本悟朗 小林千津子 川名善三 喜始真吾



3 視察先及び調査内容（目的）

(1)東京都荒川区「防災・防犯カメラネットワークシステム整備の取組について」

大規模災害発生時にリアルタイムで被災状況等を確認し、避難指示等の即時対応を可能とする態勢を構築するため、防災機能を搭載した防犯カメラを主要道路等に新規設置し、ネットワーク化されている取組について視察を行った。

(2)埼玉県行田市「乗合型AIオンデマンド交通“うきしろ号”について」

乗合型A I オンデマンド交通を用いて、収益性の低い路線バスと既存オンデマンドタクシーを統合し、全市民を対象に新たな市民の足を確保されている取組について視察を行った。

(3)東京都武蔵野市「武蔵野クリーンセンター及びむさしのエコreゾートについて」

市街地に位置するため厳しい排ガス自主基準値をクリアし、高効率発電システムの導入、周辺公共施設への蒸気・電気供給といった環境の保全に配慮した施設かつ自立・分散型地域エネルギー供給拠点である「武蔵野クリーンセンター」の取り組みと、隣接する「むさしのエコreゾート」での環境啓発の取り組みについて視察を行った。

4-1 調査結果

[第1日目] 東京都荒川区「防災・防犯カメラネットワークシステム整備の取組について」

●東京都荒川区

人口 217,475人（令和2年国調） 面積 10.16km²
人口密度 21,405.0人/km² 世帯数 112,009戸 人口増減率 2.5%
財政力指数 0.34（東京方式） 将来負担比率 ー.ー%（令和6年度）

●顔識別AI防犯カメラ33台設置（全国初）実証開始（概要）

荒川区は、本年4月から行方不明の子どもや高齢者の捜索に役立てるとし、屋外で顔識別AI（人工知能）を搭載した防犯ネットワークカメラの実証実験を開始した。

カメラは日暮里・西日暮里駅周辺で既存の33台を交換して設置し、データの保存期限は7日間、目的外利用を防ぎ、個人情報を保護するため、担当職員を限定した上、複数人で対応している。アクセス端末の制限、2段階認証、通信の暗号化、責任者による定期的なログ確認といったセキュリティ対策を講じている。

これまで港区など他自治体でAIカメラの活用事例はあったようだが、屋外での顔識別は初の試みとなり、荒川区では「防犯カメラ自体の設置当初はプライバシーの問題が言われたが、体感治安が悪くなり、区民や国民の意識も変わってきた。暗い所での識別力などを検証していきたい」と考えている。

荒川区が設置した防犯カメラ数580台、その他地域の団体とうで設置した台数は530台、合計1100台のカメラが設置されている。（個人・商店・コンビニ等を含めた防犯カメラの設置台数含む）

実態としては、抑止力の効果、警察からの問い合わせ（映像確認依頼）約400件があり、リアルタイムの画像が防犯・防災に役立てられている。

視察時の段階では、行方不明者の捜索等の事案がなかったため、解決に至った報告は無かったが、実証に向けての訓練では早い段階で人物確認ができたとの事であった。

〔補足〕 1億8,700万円（50%国庫補助） 警視庁からの派遣職員有
A I 防犯カメラ33台 A I 防災カメラ31台

5-1 所 感

最初に、小野市の面積の10.9%、約9分の1であるが故、可能な施策として考えられるとも感じています。

さて今回は、本年4月からの実証実験中のため、実際の搜索、災害時等の体験談話はなかったのですが、確実に抑止や事件等の場合には役立つものと思われます。

防犯カメラの映像をクラウド上で一括管理し、庁内での閲覧により対応されており、実際に行方不明や災害時に、限定している職員だけで対応できるのかと思いましたが、おそらくA Iの登場により一定の操作が簡易にできることでしょう。

他国では既にカメラによる人物認識が行われている国もあるようですが、日本においてはそこまでの法整備も整っておらず、荒川区の実証実験により進化に繋がれば、小野市においてもA Iと連動したシステムが求められる時期がくるかと思います。

余談ですが、東京都は「東京フリーWi-Fi」があり、興味深く感じ、小野市クラスの自治体で町中フリーWi-Fiの自治体があれ視察に訪れたいと思いつきで感じました。

4-2 視察結果

〔第2日目〕 埼玉県行田市「乗合型A Iオンデマンド交通“うきしろ号”について」

●埼玉県行田市

人口 78,617人（令和2年国調） 面積 67.49km²
人口密度 1,164.8人/km² 世帯数 31,876戸 人口増減率 -4.3%
財政力指数 0.66 将来負担比率 1.1%（令和6年度）

●A Iを活用した乗合型オンデマンド交通（概要）

埼玉県行田市では、A Iを活用した乗合型オンデマンド交通サービスとして「うきしろ号」が運行されている。自宅や市内の約800カ所に指定された乗降場所の間を、A Iの最適ルートで結ぶ予約型の乗り合いサービスである。

「マイカーがなくても移動できる行田」を目指して！

○行田市の公共交通状況

鉄道はJ R（高崎線）と秩父鉄道があり、J R行田駅の乗客数は、令和6年度で2,158,975人、また、秩父鉄道においては5つの駅があり、全駅での乗客数は、令和6年度

で964,402人であった。

路線バスにおいては、3路線があり、令和6年度では3路線合わせての利用者は757,211人である。鉄道路線の駅周辺は市街化していて、路線バス、循環型コミバスが機能している。一般のタクシーの実働台数は時間帯により10台～15台程度が運行している。

それらに加えて、行田市は市内循環バス、日本版ライドシェア、シェアサイクルを事業展開していた。そこで・・・次なるステップとして・・・。

○導入の背景

人口の少ない地域では乗車率が低く、本数が少ない。また、バス停まで行けず、思い通りに行きたいところに行けない。また、デマンドタクシーは利用者増に伴うコストアップ、遠距離になる程個人負担が増え、混雑時には予約がとれない不都合があり、コミュニティバス・デマンドタクシーを廃止し、現在に至った。

運行開始	令和7（2025）年1月6日
対 象 者	行田市内にお住まい 事前に利用者登録をした方
乗降場所	公共施設・医療機関・商業施設など市内約800ヶ所
運 賃	一般1回 600円
予約方法	電話・ウェブ・LINEによる事前予約
予約期限	乗車時間の45分前まで予約可能（※見直しにより短縮された）
利用車両	専用車両4台

5-2 所 感

公共交通の空白地において行政が交通政策に取り組む必要性は納得のいくところ、しかし、運行コスト等を考えると、無理なものは無理、市民自らが自己の交通体制づくりを考える必要も否定できません。

そんな現状から、行田市が取り組むAIを活用した乗合タクシーは効率化した公共交通の手段として、現行法からは有効な事業として感じます。

小野市においても、令和8年10月から市街地に距離感がある下東条地区を選定し、AIを活用したデマンドタクシーの実証実験を展開し、今後、市民ニーズと実状を調査し、今後の展開に繋げる事と思います。状況を見守りたいと思います。

そんなことを考えている際、7月24日、自宅から「らんらんバス」で市役所に登頂しました。自家用車なら約10分、らんらんバスでは18分程度で市役所に到着しました。30度を超える猛暑、酷暑の中、バス車内は寒すぎるほどの快適性があり、同上している御婦人からは「この時期にはらんらんバスは極楽」といった発言も耳にしました。

視察と小野市の現状を考え、血管で例えると大動脈はJR加古川線や神戸電鉄、加えて神姫バスがあり、中動脈の役割は「らんらんバス」、AIの知能と働きを活用した乗合型オンデマンドが、バイパスなって小動脈として成しえるか、小野市の実証結果を楽しみにしています。

【第3日目】 東京武蔵野市「武蔵野クリーンセンター&むさしのエコreゾートについて」

●東京都武蔵野

人口 150,149人（令和2年国調） 面積 10.98km²
人口密度 13674.8人/km² 世帯数 78,054戸 人口増減率 3.7%
財政力指数 1.57 将来負担比率 ー.ー%（令和6年度）

●まちに溶け込み、まちにつながる武蔵野クリーンセンター

武蔵野クリーンセンターは、周辺住民の方々の理解と協力により、昭和59年からごみ処理施設として、焼却処理施設と不燃・粗大ごみ処理施設を備え、可燃ごみ・不燃ごみ・粗大ごみ・有害ごみを処理しています。

現在の施設は平成29（2017）年に稼働を開始しています。施設は最新鋭のプラント設備を導入し、環境の保全に配慮した安全・安心な施設として運営しており、さらに、武蔵野の雑木林をイメージした外観デザインにより、景観の調和を図っています。

また、見学者コースは、2階を1周するだけでごみ処理の流れが理解することができる開かれたごみ処理施設になっています。このように、清掃工場の役割を担うだけでなく、“**まちに溶け込み まちにつながる武蔵野クリーンセンター**”を目指しています。

●武蔵野クリーンセンターのあゆみ・概要

平成20年 （仮称）武蔵野クリーンセンター施設基本構想
平成22年 新施設基本計画策定（委員会）
平成23年～24年 事業者選定（委員会）
平成24年3月～25年7月 PFIに準拠した事業者選定・契約

事業名称	新武蔵野クリーンセンター整備運営事業
入札方法	総合評価一般競争入札
事業方式	DBO方式（設計＋建設＋運営20年）
建設期間	平成25年7月～令和元年6月（焼却施設竣工は平成29年3月）
総事業費	建設費（111億2,468万円） 運営費（105億6,050万円）20年間
焼却施設	全連続燃焼ストーカ式 120t／日（60t2炉）
余熱利用	ごみ発電＋所内・近隣公共施設への電力・蒸気利用
発電設備	ごみ発電（抽気復水タービン） 最大出力2,650kw コージェネ（ガスタービン） 最大出力1,500kw
エネ効率	発電効率20.5%

建設業者 荏原環境プラント株式会社 （構成企業） 鹿島建設株式会社
運営業者 株式会社むさしのEサービス
監 理 株式会社日建設計（技術支援） 公益社団法人全国都市清掃会議

●武蔵野クリーンセンターの特色

- ・ 周辺の公共施設（市役所・運動公園等）への電力供給
- ・ 災害時には天然ガスによるコージェネにより自力発電稼働しゴミ焼却の結果発電に繋ぐ
- ・ 安全性・低公害を徹底的にアピール
- ・ 景観及び建築デザインへの配慮（こだわり）
- ・ 見学コースの充実

●むさしのエコ re ゾート

旧クリーンセンターの跡地を利用 市民参加による環境啓発（環境課題の中心施設）
年間約10万人の来館（リピート率が高い）

5-3 所 感

10.98km²の比較的コンパクトな自治体で、単独でのごみ焼却施設を運営し、公共施設が隣接することから自己発電により電力を賄っており、効率の良い施設、効率の良い使い方があります。

ゴミ焼却施設は、どこの自治体でも環境への配慮やひらかれた施設等々を掲げ、周辺住民等への理解は元より、市民への理解を求めながら計画を進め運営をされている再確認の場でもありました。

総 括

今回の常任委員会視察は、総勢9名での参加であり、関東方面へ出向きました。その際、会話の中で、9人中5家庭の子女が東京在住とのことでした。55%が東京在住という数値を考えると、いかに小野市（三木市）の人口が減少し、東京集中となっているか伺える状況でした。訪問3市の人口増減率を見ても行田市（埼玉県）のみマイナスで荒川区、武蔵野市共にプラスの増減率となっています。

地方創成、地方で育み後は東京？ 何とも言い難いところではありますが現実論として存在するところを熟慮し、今後の活動に活かしたいと感じるところです。

令和 8 年 7 月 10 日

小野市議会議長 喜始真吾 様

総務文教常任委員会
山 本 悟 朗

行政視察報告書

先般、実施しました総務文教常任委員会視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 令和 8 年 7 月 8 日（水）～令和 8 年 7 月 10 日（金）

2 視察メンバー 安達哲郎、藤原章、山本麻貴子、喜始真吾
前田光教、山本悟朗、小林千津子、川名善三

3 視察先及び調査内容

- （1）東京都荒川区 （人口：約 21 万 7 千人、面積：10.16Km²）
防災、防犯カメラネットワークシステム整備の取組について
- （2）埼玉県行田市 （人口：約 7 万 9 千人、面積：67.49Km²）
乗合型 AI オンデマンド交通「うきしろ号」について
- （3）東京都武蔵野市 （人口：約 14 万 8 千人、面積：10.98Km²）
武蔵野クリーンセンター及びむさしのエコ re ゾートについて

4 調査結果

【第1日】

《視察先》

東京都荒川区 （人口：約 21 万 7 千人、面積：10.16K m²）

《視察項目》

防災、防犯カメラネットワークシステム整備の取組について

《視察内容》

日本で最初に市区が管理するすべての公園に防犯カメラを設置した荒川区には、現時点で、区が設置した防犯カメラ約 580 台に加え、商店街など地域団体が設置した防犯カメラ約 530 台、合計約 1100 台が設置されている。

これに個人宅、商店(コンビニなど)を含めた防犯カメラの設置台数が加わることになる。荒川区での個人宅への侵入窃盗事件数は令和 6 年度で 19 件、令和 7 年度で 26 件であり、区の担当者によれば、「防犯カメラによる抑止力が十二分に機能している」とのことであった。

一方で、個人宅並びに駅、商店の店先などでの自転車窃盗の件数は多く発生しているが、これについても捜査段階で防犯カメラの情報が利用されていて、区が管理する防犯カメラについて警察署からの問い合わせは年間 400 件を超えている。

そのようななか、令和 8 年 4 月より次ページの表のスキームによる実証実験が始まっている。防災カメラ 31 台と AI 防犯カメラ 33 台を設置し、クラウドシステムに繋げることで、庁舎にしながら、カメラの情報をリアルタイムを含めて収集できるシステムの構築である。AI 防犯カメラについては、個人情報保護の観点から犯罪捜査に利用することを禁じ、用途を行方不明の児童・高齢者の捜索に限定している。

4 月の運用開始から視察当日までの間には、幸いなことに、これらの機能が活躍することはなかった。

必要とした経費は 1 億 8700 万円。半額が国庫補助されている。

《所 感》

10 km²の中に防犯カメラが 1100 台設置してある荒川区は、小野市の状況とは大きくかけ離れている。

AI 防犯カメラについても 1 時間に何百人も駅を乗降する街と小野市は随分と違う。

小野市内においては、現在設置されている防犯カメラカメラの量で足りていると感じるし、AI の導入にも、ピンとこない。

しかし、防犯カメラの情報をクラウドシステムに組み込み、一元管理する事には興味を覚える。

監視を連想するカメラを増やすことより、必要な時にいかに迅速・的確に利用できるようにするかを考えることのほうが大切だ。

【第2日】

《視察先》

埼玉県行田市 （人口：約7万9千人、面積：67.49K m²）

《視察項目》

乗合型 AI オンデマンド交通「うきしろ号」について

《視察内容》

交通施策の概要と乗合型 AI 導入

行田市は小野市よりコンパクトで都市密度が高いものの、地域の概要は小野市とよく似ている。

市の中心部分約20%が市街化区域で、周辺に耕作地、市街化調整区域が広がっている。

鉄道は2路線で、1つは JR 高崎線。

市内にある駅は1つだが、乗降者数は年間200万人を超える。

他の1つは、秩父鉄道の駅が市内に5つ。

これらの駅の乗降者数は、それぞれ40万人程度。

鉄道路線の駅周辺は市街化していて、路線バス、循環型コミバスが機能している。

一般のタクシーの実働台数は時間帯により10台～15台。

行田市の交通施策は、コミュニティバス、デマンドタクシー、乗合型 AI オンデマンド交通のそれぞれについて導入を行っていて、施策の見直しが進んでいる事からも、小野市の今後の施策を考えるにあたり、大いに考になる。

なお、小野市のらん♡らんバスでは高齢者を無料にしているが、行田市では有料。

他の交通手段の料金は、ほぼ同額に近い。

施策の見直しについてのポイントは、乗合型 AI オンデマンド交通の導入にあたり、乗車率の低い市街化調整区域と市街化区域を繋ぐコミュニティバス路線を廃止し、デマンドタクシー事業も廃止した事にある。

コミュニティバス廃線の理由

行政側 人口の少ない地域では乗車率が低く採算が合わない。

住民側 本数が少ない。バス停まで遠い。ピンポイントで行きたい所に行けない。

デマンドタクシー事業廃止の理由

行政側 利用が促進されるほど行政コストが増大する。

住民側 遠距離になるほど料金が高い。混雑時間には予約が取れない。

乗合型 AI の運用

使用する車はシエンタ 1 台、ノア 3 台、昇降機付ハイエース 1 台の合計 4 台。

予約できるのは利用日の 7 日前から 45 分前まで。

利用できるのは市内在住で事前に登録をしている人。

利用者の年齢別割合は 80 代以上が 56%、70 代が 25%を占める。

運行時間は 7 時 30 分から 18 時 30 分までの 11 時間。

利用実績は 1 日 1 台あたり 15 回程度の乗車。

乗合が発生する割合は 20%程度。乗合率は低く感じるが、他市で運用されている同様の事業と比較するとそ随分な高水準だと説明を受ける。

乗合の仕組

最初に予約を入れた人(A さんとする)の予約を受ける際に、到着時間に相当に余裕のある到着時間を約束する事で、次に予約をする人(B さん)の乗合を可能にする。

(例) 実際に移動に必要な時間は 20 分な A さんの自宅から市役所への利用について
自宅 8 時 → 市役所 8 時 40 分 の予約をとる。

余裕を見ている 20 分の間に乗車可能なルートで B さんから申し込みがあれば、乗合成立となる。

A さんの自宅 8 時 → B さんの自宅 8 時 15 分 →

市役所 8 時 30 分 → B さんの目的地 8 時 50 分 のような形となる。

B さんの目的地への到着目標時間が 8 時 40 分なら、乗合は成立しない。

乗合が成立しない場合には、A さんの市役所到着時間は 8 時 20 分になる。

これらの組み合わせの組み立てはすべて AI が基準に基づき瞬時に判断する。

運転手は AI が指示する順番に迎車に向かい、運送を行う。

《所 感》

交通空白区の解消に向けて費用対効果を突き詰めていくと、行田市が今取り組んでいるシステムにたどり着くのだろうと感じる。

しかしながら、市内均一料金で運行することが前提であるため、乗合率が 20%ならデマンドタクシーよりも行政コストは上昇するし、運転手不足の問題を解決する手助けにもならない。システムの仕様から、余裕を持たす時間を長くして、乗合率を高める仕様を進めるべきだと考える。

私自身が調整区域の住民ではあるが、そもそも、市域を市街化区域と調整区域に分けた時点で、生活利便性の高低が示されており、不便な地域であっても高額なタクシー料金を支払えば移動が可能な状況で、不便地域の移動コストを低減する為に、市域全体から集めた税を投入する程度は、憲法の保障する、「健康で文化的な最低水準の生活」とのバランスをしっかりと考える必要があると思う。

【第3日】

《視察先》

東京都武蔵野市（人口：約14万8千人、面積：10.98K㎡）

《視察項目》

武蔵野クリーンセンター及びむさしのエコreゾートについて

《視察内容》

クリーンセンターの概要

事業主体 一部事務組合ではなく、市単独
事業方式 DBO方式 設計・建設費111億円 20年間の運営費105億円の包括契約
供用開始 令和元年
焼却施設 全連続燃焼ストーカ式 60t 2基
余熱利用方式 ごみ発電 + 所内、近隣公共施設への電力供給
発電量 最大出力 2650kW

クリーンセンターの特徴

処理施設の場所 市役所、運動公園などが隣接する市街地の真ん中。
ガス・コージェネレーション設備 災害などで電力の供給が止まった時に、自力で。
センターを稼働させ、焼却を行うとともに、近隣施設に電力を供給する。
市街地の中に建設したクリーンセンターということもあり、安全性・低公害を徹底的にアピールしている。

むさしのエコreゾート

現在のクリーンセンターに隣接する旧クリーンセンターの跡地を利用。
クリーンセンターの歴史を振り返り、多様な環境に関する啓発を市民参加のもと実践していくための中心施設。
来館者は年間約10万人程度。リピート率が高く、地域の環境学習やコミュニティの拠点として定着してきている。

《所感》

市域の全てが市街化区域の都会。近接する市区とも市街化で繋がっている。
迷惑施設とされるクリーンセンターを市内で建設しようとするれば、個別の住民が多く暮らす場所よりも公共施設が立ち並ぶ所に建設することが一番容易だったと推察される。
施設に向かってパッカー車が進む道路の向かい側には市役所の庁舎がある。
むさしのエコreゾートは施設跡地の利活用としてよく考えられている。
現在使用中のクリーンを建て替える時期が来たら、ここに建設するのだろう。
武蔵野市では40～50年に一度、クリーンセンターの建設地をどこにするかの議論を行う必要がなくなったのではと思う。

令和 8 年 7 月 23 日

小野市議会議長 喜始真吾様

総務文教常任委員会
小林千津子

行政視察報告書

先般、実施しました 総務文教常任委員会による行政視察結果について、
下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 令和 8 年 7 月 8 日（水）～令和 8 年 7 月 10 日（金）

2 視察メンバー

委員長	安達哲郎	副委員長	藤原 章	
委員	山本麻貴子	前田光教	山本悟朗	小林千津子
	川名善三	喜始真吾		

3 視察先及び調査内容

- (1) 東京都荒川区役所（人口：21 万 7 千 面積 10. 16 km²）
防災・防犯カメラネットワークシステム整備の取り組みについて
- (2) 埼玉県行田市 （人口：約 7 万 8 千人、面積：67.49.Km²）
乗合型 A I オンデマンド交通「うきしろ号」について
- (3) 東京都武蔵野市 （人口：約 15 万人、面積：10.98Km²）
武蔵野クリーンセンター及びむさしのエコ r e ギョートについて

3 調査結果

【第1日】 令和8年7月8日（水） 14時～16時

《視察先》 東京都荒川区 人口令和2年国調 217,475人
面積 10.16 km²

《視察項目》 防災・防犯カメラネットワークシステム整備の取り組みについて

《視察目的》 大規模災害発生時にリアルタイムで被災状況等を確認し、避難指示等、即時対応を可能とする態勢を構築し、防災機能を構築するため、防災機能を搭載した防犯カメラを主要道路等に新規設置し、ネットワーク化されている取り組みについて視察する。

《視察内容》

1. 実証目的

災害発生時に迅速な被災状況の把握と、避難指示等の対応、緊急事案の早期発見・解決を図るため防災カメラの設置に加え、エリアを限定して防犯カメラのネット化及び顔識別機能を搭載したAI防犯カメラの設置を試行実施し効果を検証する。

2. 実証概要

1. 防災カメラの設置、区内全域約500m間隔で31か所整備
2. AI防犯カメラの設置33台 行方不明者や認知症の捜索等緊急性の高い事案の早期解決を図るため屋外では全国初となる「顔識別機能」を搭載したAI防犯カメラの実証実験を開始
3. 実証期間 令和8年4月1日～3月下旬（予定）

3. 今後の方向性

実証で得られた効果や課題、必要性など整理、地域の実情に即した最適な運用を検討していく。

事前質問 ①、防犯カメラの設置台数が多いが、個人情報保護やプライバシー、セキュリティ対策についてどのようにされているのか。
●運用にあたっては「個人情報の保護に関する法律」に準拠し
保存期間 7日間 閲覧権限者等厳格な基準を設け対処

- ②、設置時の住民説明や合意形成はどのようにされているのか、
又反対などはなかったか。
- 大半の住民からは理解を得たが、専用柱の設置については地元町会や周辺住民に対し丁寧な説明を行った。
- ③、設置総額及び年間維持管理費（更新費用含む）はどのくらいか。
又国庫補助等の有無について、
- 設置総額 187、093、995円（契約金額）
維持管理費 約1,125万円
- ④、防犯カメラの設置にかかる警察との連携状況について。
- 区内3警察署と実務者会議 月1回 情報共有を行う
- ⑤、AI防犯カメラの具体的な活用方法について。
- 行方不明児童や認知症の高齢者の方等の捜索
人命に関わる事案にのみに限定
- ⑥、共同住宅には助成制度があるとのことだが、個人所有の一戸建て住宅にも助成制度があるのか。
- 戸建て住宅対象の助成 補助申請額の2分の1
上限30,000円 区から助成

《所感》

荒川区は面積10㎢、人口21万7千人、当市の9分の1の地域に人口約5倍と人口密度の高い区である。「俳句のまちあらかわ」として俳句にまつわる様々なイベントが開催されていると聞き、当方から当市の「短歌のまち」のPRもされていました。

6月議会最後の日だったようですが、副議長様から歓迎の挨拶を頂き、危機管理部生活安全課長様から説明を受けました。

試行が4月から始まったばかりなので、これからの運用結果が気になります。設置総額、維持管理費と大変な金額が大きなシステムです。顔認証別機能を搭載したAI防犯カメラは、市民にとって個人情報の保護からも課題が多いと考えます。



議場にて



副議長より挨拶を頂く

【第2日】 令和8年7月9日（木） 13時30分～15時30分

《視察先》 埼玉県行田市 人口令和2年国調 78,617人
面積 67.49 km²

《視察項目》 乗合型A I オンデマンド交通「うきしろ号」について

《視察目的》 乗り合い型A I オンデマンド交通を用いて、収益性の低い路線バスと既存デマンドタクシーを統合し、全市民を対象に新たな市民の足を確保されている取り組みについて視察する。

乗合型A I オンデマンド交通うきしろ号の概要

運行日 月曜日～土曜日

運行時間 午前7時30分～午後6時30分

予約方法 電話、ウェブ、ライン、ファックス

利用日の7日前から乗車時間の45分前までに予約

事前に利用登録 自宅から市内全域 指定乗降場所

《所感》

行田市においても少子高齢化が進行する中、「自家用車がなくても安心して移動できる行田」の実現に向け、令和7年1月6日より実証運行を開始し、令和8年1月6日より本運行を開始した。予約に応じて最適なルートでA I

が選定、同じ時間、同じ方向に向かう利用者が乗り合わせる乗合型公共交通。利用者は80代以上が56%、70代が25%、利用実績は1日15回程度、利用する車は4台、運賃は一般で600円、高齢者（75才以上）500円、障害者や小・中学生は300円、未就学児は無料で、指定乗降場所は829か所あり、どこから乗降しても同じ金額で市内を移動できる。

当市においても実証運行が実施されます。過疎地に生活し 高齢者になって自動車免許を手放した後の生活を思う時、乗合型オンデマンド交通利用の利便性を痛感する事と思います。



市長のご挨拶を頂きました。

【第3日】 令和8年7月10日（金） 10時～12時

《視察先》 東京都武蔵野市 人口令和2年国調 47,562人
面積 92.94 km²

《視察内容》 武蔵野クリーンセンター及びむさしのエコreゾートについて
《視察目的》 市街地に位置するため厳しい排ガス自主基準値をクリアし、高効率発電システムの導入、周辺公共施設への蒸気・電気供給といった環境の保全に配慮した施設かつ自立・分散型地域エネルギー供給拠点である「武蔵野クリーンセンター」の取り組みと、隣接する「むさしのエコreゾート」での環境啓発の取り組みを視察する。

- 事前質問
- ①. 焼却熱を利用した発熱事業において、現在の利用状況及び災害時のエネルギー供給拠点としての機能について。
 - クリーンセンターにおいて一括受電、電力はクリーンセンターはもとより市庁舎、他 6 施設に配電。
 - 発電電力量 11, 666, 570kw h
 - ②. 現在の武蔵野クリーンセンターの位置決定など更新時の課題及び重視したコンセプト(環境性・市民解放・防災機能)について。
 - 市民参加による議論、東日本大震災を契機に災害に強い施設づくり
 - ③. 周辺住民との合意形成はどのように進められたのか。(対立や調整の有無)
 - 平成 20 年度より新施設町づくり検討委員会を立ち上げ議論
 - ④. 建設費用、維持管理費の状況と財源(補助金等)の内訳について
 - 建設費 1 1 1 億 2 4 6 8 万円
 - 運営費 103 億 8960 万
 - 国庫補助金 約 38 億円
 - ⑤. 武蔵野エコ re ゾートは環境について学び、考え、活動する施設だが、この施設ができたことによる市民意識の変化について。
 - 令和 2 年 1 1 月開館 令和 8 年 4 月から運営を事業者へ委託
 - ⑥. むさしのエコ re ゾートによる見学者数や学校教育との連携状況について。
 - 来館者令和 7 年度 113. 766 人、順調に増加
 - ⑦. 市指定のごみ処理袋により分別回収されているが、リチウムイオン電池の回収は問題なく行われているか。
 - リチウムイオン電池は「危険・有害ごみ」として回収、火災感知器及びスプリンクラーを増設、発火しても大事には至っていない。

《所感》

市役所に隣接し市街地の中心部に位置するごみ処理施設。

景観及び建築デザインに配慮され、施設の周囲は雑木に囲まれ街並みに溶け込んでおり、今までのごみ処理施設のイメージが変わりました。

事業主体は市単独で運営され迷惑施設からの脱却を目指し、予約なしで自由に見学できる見学コース等、開かれた施設づくりがされていました。

むさしのエコreゾートは現在のクリーンセンターの隣に位置、旧クリーンセンターの跡地を利用、市民参加型施設として新しい施設が稼働するまで30年以上の間、市民生活に欠かせないごみ処理を担ってきた歴史を残し、環境に関する啓発を次の世代に受け継ぐ施設でした。



説明を受ける



議場にて

令和8年7月24日

小野市議会議長 様

総務文教常任委員会
川 名 善 三

行政視察報告書

先般、実施しました 総務文教常任委員会 行政視察の結果について、
下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 令和8年7月8日（水）～令和8年7月10日（金）

2 視察メンバー

安達哲郎・藤原 章・山本麻貴子・喜始真吾・山本悟朗・前田光教
小林千津子・川名善三

3 視察先及び調査内容

- （1）**東京都荒川区**（人口：約22万2千人、面積：10.16K m^2 ）
防災・防犯カメラネットワーク整備の取組について
- （2）**埼玉県行田市**（人口：約7万7千人、面積：67.49K m^2 ）
乗合型AI オンデマンド交通「うきしろ号」について
- （3）**東京都武蔵野市**（人口：約14万8千人、面積：10.98K m^2 ）
武蔵野クリーンセンター及びむさしのエコ re ゾートについて

4 調査結果

【第1日】

東京都荒川区

(人口：約 22 万 2 千人、面積：10.16K^m²)

《視察項目》

防災・防犯カメラネットワーク整備の取組について

《視察内容》

行方不明の迷子や高齢者の早期発見、および災害時の状況把握を目的として、屋外で顔識別 AI（人工知能）を搭載した防犯ネットワークカメラの実証運用を令和 8 年 4 月より実施している。



〈カメラの種類〉

・防災カメラ（専用柱等含む）31 台⇒区内全域に配置され、大規模災害時の被害状況確認や迅速な避難指示を出すための情報収集に特化して、停電時でも 72 時間（3 日間）連続で稼働できるバッテリーを備えており、区内全域の状況をリアルタイムで把握できるシステムとして運用

・AI 顔識別防犯カメラ 33 台⇒日暮里・西日暮里駅周辺に設置され、行方不明者の早期発見に特化した高度な機能を備える。

〈認識・検索機能について〉

- ① 顔識別機能⇒カメラが捉えた映像から AI が自動で顔を認識し、1 秒間に平均 9 人の顔を識別して静止画（スナップショット）データへ順次変換する。
- ② マスク着用でも検知可能⇒顔を正面から捉えていれば、マスクを着用していても高い精度で人物を識別・照合が可能
- ③ 足取りのタイムライン表示⇒事前登録した特定の顔写真をもとに検索をかけると、その人物が「いつ」「どのカメラ（場所）」に映ったかを一覧で表示し、移動ルートを迅速に把握できる。

〈荒川区内の公設、地域防犯カメラ設置台数〉

防災カメラに加え、区内には治安維持や犯罪抑止を目的とした「街頭防犯カメラ」も多数設置されており、区が直接管理するものや地域団体（町会・商店街など）が設置したものを含めると、区内全体で約 1,100 台以上が稼働中

・区設置カメラ（通学路・公園など）：579 台

（内訳：道路・通学路など 331 台 / 公園・児童遊園など 248 台）

・地域団体設置カメラ（町会・商店街など）：526 台

〈実証期間〉

令和 8 年 4 月 1 日から令和 9 年 3 月下旬（予定）

〈主な検証内容〉

- ① ネットワーク化による情報収集や共有時間の短縮効果【防災・防犯カメラ】
- ② クラウド上での一括管理による事務の効率化【防災・防犯カメラ】
- ③ AI 顔識別機能の制度（設置角度、ズーム、天候等）【防犯カメラのみ】



〈必要経費内容〉

設置総額：187 百万円

維持管理経費：約 1,125 万円

防災カメラネットワークシステムライセンス費用（31 台）：465 万円／年

AI 顔識別機能システムライセンス費用：660 万円／年

〔国費：93 百万円（補助申請額 1/2）新しい地方経済・生活環境創生交付金〕

〈所 感〉

10 km²と狭い市域の中に 1000 台のカメラが設置されていることに、小野市との環境がかなり異なるとの印象が強かった。特に AI 防犯カメラは「行方不明児童や認知症の高齢者の捜索」という緊急性が高く、人命に関わる事案のみに限定されているが、その市域の環境の中でその有効性が発揮されるのではないかと思われた。

【第2日】

埼玉県行田市

(人口：約7万7千人、面積：67.49K㎡)

《視察項目》

乗合型 AI オンデマンド交通「うきしろ号」について

《視察内容》

【導入までの経緯】

「うきしろ号」が導入されるまで、行田市では「市内循環バス（全6路線）」と「高齢者等を対象としたデマンドタクシー」の2つが主な地域公共交通として運行。（これ以外に「免許証自主返納者支援事業」としてタクシー利用券交付を行っていたが、「うきしろ号」利用割引制度へ転換）

・行田市内循環バス（定時・定路線型）

1995年から運行を開始し、徐々に路線を拡大しながら市民の足として定着
路線の構成⇒「東循環」「西循環」「北東」「北西」「南大通り線」「観光拠点循環」の計6コースで運行

運賃⇒1回乗車につき150円（75歳以上の高齢者や未就学児、障がい者などは無料）

課題⇒コロナ禍以降、特に「東循環」「北西」「北東」の3路線は利用者が極めて少なく、非効率な状態に陥り、路線の維持に多額の固定経費が市の財政を圧迫するようになった。

※なお、「うきしろ号」の導入に伴い、これら不採算の3路線は2025年3月末で廃止、残る3路線（西循環・南大通り線・観光拠点循環）での運行となる。

・高齢者等向けデマンドタクシー（予約制）

移動が困難な高齢者（70歳以上など）や障がい者を対象に、居住地と市内各地（主に病院や商業施設）を結ぶ交通手段として導入

運行形態：事前に電話などで予約、利用者の自宅近くから目的地まで乗り合わせて移動する。

課題⇒高齢化の進展や運転免許自主返納者の増加に伴い利用ニーズが急増すえうも、深刻な運転手不足や、市が負担する利用助成費（年間2,700万円超）の増加が大きな問題となり、2026年12月に廃止、「うきしろ号」に移行



行田市の乗合型 AI オンデマンド交通「うきしろ号」は、従来の市内循環バスの非効率な路線を解消し、高齢化の進展や運転免許証の返納増加に伴い、病院や買い物などへの生活の足を確保する必要性が高まるなど、移動需要の多様化による高齢化社会における「地域の足」と移動の利便性を確保するために導入することとし、既存の定時・定路線型の交通に代わる新たな手法となるルート进行调整、相乗りで運行するデマンドバスとして、2022年10月1日より実証運行がスタートした。



「うきしろ号」は、時刻表や決まった運行ルートを持たない、完全予約制の相乗り交通システムとなっており、人工知能（AI）が複数の予約データをリアルタイムで解析し、同じ時間帯に同方向へ向かう利用者を効率よく組み合わせ、その都度、最短・最適な運行ルートとスケジュールを自動で生成。

市役所での研修後、運行事業者である昭和タクシー（株）（予約センター）を訪
問、予約受付の実際を視察することができた。その間にも電話予約が入り、担
当者の応答によりスムーズに受付されていた。大きさの異なる運用車両が 4 台
で市域全体をカバーしていることもあり、相乗り率は 2 割程度とされていたが、

愛 称	うきしろ号(公募及び市民投票により決定)	赤字部分は運行開始後に
-----	----------------------	-------------

要 称	うさしろ号(公募及び市民発案により決定)	赤字部分は運行開始後に 見直しを実施
運行方式	・運行ルートを定める、予約に応じたルートを実行 ・同一時間帯に同方向へ向かう利用者が集り合わせると乗合型 ・最適な運行ルートをAIが決定して決定	
運行形態	道路運送法第4条許可による運行(令和8年1月6日～)	
運行区域	行田市内全域(ただし、自宅もしくは指定乗降場所(329カ所)での乗降に限る)	
利用対象者	市民(事前登録制)	
運 行 日	月曜日～土曜日(日祝及び年末年始は運休)	
運行時間	午前7時30分 ～ 午後6時30分	
利用方法	電話、ウェブ、ライン、FAXによる事前予約制	
予約可能時間	利用日の7日前から利用時間の45分前まで(「さくら号」同様に)	
運 賃 (1回乗車当たり)	一般	600円
	75歳以上の高齢者(70歳以上65歳未満)もしくは運転免許証自主返納者	500円
	障がい者(介助者1名含む)、妊産婦*	300円
	小・中学生	300円
	未就学児	無 料
車 両	セダン型(定員4名) 1台 ワゴン型(定員6名) 2台 車椅子対応車(定員8名) 1台	合計4台
運行事業者	昭和クワンシー株式会社(行田市中央1-2)	

水準としては高い方とのことであつた。今後導入に当たっては、相乗り率はあまり重視しない方がよいとの助言を頂いた。行田市は規模的にも小野市に近いところがあり、運用車両数は少ないが、AI による予約運用がどのように機能していくか注視したい。

【第3日】

東京都武蔵野市

(人口：約 14 万 8 千人、面積：10.98K m^2)

《視察項目》

武蔵野クリーンセンター及び

むさしのエコ re ゾートについて

《視察内容》

【武蔵野クリーンセンター】

武蔵野市は東京都のほぼ中央部に位置し、面積 10.98K m^2 、人口約 14 万 8 千人、で人口密度は東京都を除き全国区第二位。昭和 59(1984)年からごみ処理施設として発足、現在の施設は平成 29 年より稼働を開始。最新鋭のプラント設備を導入し、環境の保全に配慮した安全・安心な施設として運営。武蔵野の雑木林をイメージした外観デザインにより、景観の調和を図る。また、2 階を 1 周するとごみ処理の流れが理解できる見学者コースなど、市民に開かれたごみ処理施設になっている。



【施設外観】



【初代クリーンセンターからの建設に至る経緯】

昭和 30 年当時、武蔵野市は自前の焼却施設が無く、隣接の三鷹市・保谷市（現・西東京市）と共同で、三鷹市内にある焼却場（武三保険衛生組合）を利用しごみを処理していた。

昭和 45 年頃、その焼却場に隣接する調布市側に住宅地が広がり、住民から「騒音・悪臭・煙がひどい」などと苦情が殺到、昭和 46 年には周辺住民が道路にピケを張り、武蔵野市からのごみ搬入車を力ずくで阻止する事態に発展した。（所謂、武蔵野ゴミ戦争）

昭和 48 年に武蔵野市内での施設建設が表明され、事態が収拾

昭和 55 年建設用地決定（市営グラウンド）

昭和 59 年旧クリーンセンター稼働開始

平成 17 年旧クリーンセンター精密診断実施⇒改修より建替が有利と判定

平成 20 年武蔵野クリーンセンター施設基本構想

平成 22 年新施設基本計画策定委員会

平成 23 年度～24 年度新施設事業者選定委員会

平成 24 年 3 月～平成 25 年 7 月 PFI 法に準じた事業者選定⇒契約

所在地 武蔵野市緑町 3-1-5

敷地面積 約 17,000 m²

総事業費 206 億円

(内訳: 建設工事 約 111 億円、運營業務 約 105 億円 20 年間)

着工 平成 27 年 7 月 竣工 令和元年 6 月

処理能力 焼却炉 120 t / 日 (60 t × 2 炉)

施設概要

建築概要	敷地面積	約 17,000m ²
	延べ面積	約 15,000m ²
	建物高さ	約 15 m (最高高さ 17.79 m)
	階 数	地上 3 階地下 2 階
煙 突	構 造	(地下) 鉄骨鉄筋コンクリート造 (地上) 鉄骨造・鉄筋コンクリート造
プラント	高 さ	59 m (既存煙突再利用・耐震補強 / 内筒更新)
	焼 却 炉	全連続焼却式ストーカ炉 処理能力 120t/24h (60t/24h × 2 炉)
	発電設備	高気タービン発電機 (最大出力 2,650kW) ガスコージェネレーション設備 (最大出力 1,500kW)
不燃・粗大ごみ処理施設		破碎・選別式 / 処理能力 10t/5h
着 工		平成 26 (2014) 年 5 月
竣 工		平成 29 (2017) 年 3 月 (工場棟)
		令和元 (2019) 年 6 月 (管理棟・連絡通路)
施設整備費		111 億 2,468 万 6,400 円

プラント設計・製造

荏原環境プラント株式会社

建築設計

KAJIMA DESIGN

施工

荏原環境プラント株式会社、鹿島建設株式会社

工事監理

武蔵野市、株式会社日建設計

デザイン設計監修

武蔵野市、株式会社日建設計、水谷俊博建築設計事務所

プラント技術支援

公益社団法人 全国都市清掃会議

運営

株式会社むさしのエサービス (特別目的会社)

平成 29 (2017) 年 4 月～ (20 年間)



ごみ発電設備
(高気タービン発電機)



ガスコージェネレーション
設備



武蔵野クリーンセンターは、CEMSでエネルギー需要予測およびエネルギー供給計画を立て、需要実績を収集し、分析することにより、エネルギーの最適管理を行っています。



【屋上緑化として畑を耕作】



【隣接する市役所庁舎】



【むさしのエコre ゾート】

「むさしのエコre ゾート」は、市民との議論を重ねて実現。ごみ処理施設「武蔵野クリーンセンター」に隣接する旧建物（焼却処理施設）の一部を環境啓発施設としてノベーションして整備

市民や市民団体、事業者、関係機関、市などの多くの個人・団体が参加して、ごみをはじめさまざまな環境について一緒に考え、学び合い、行動・活動するための施設となっている。

〈おもな施設活用事例〉

・ものづくり工房

ごみピットのプラットホーム跡地を活用した大空間。端切れや雑紙、木材などの廃材を使った自由な工作ができるスペース

・フリースペース

子ども達に人気の環境に関する展示のほか、カプラ（木製ブロック）などの廃材でできた積み木で遊ぶ。段ボールでできたお店屋さんごっこエリア

・コミュニティラウンジ・カフェスペース

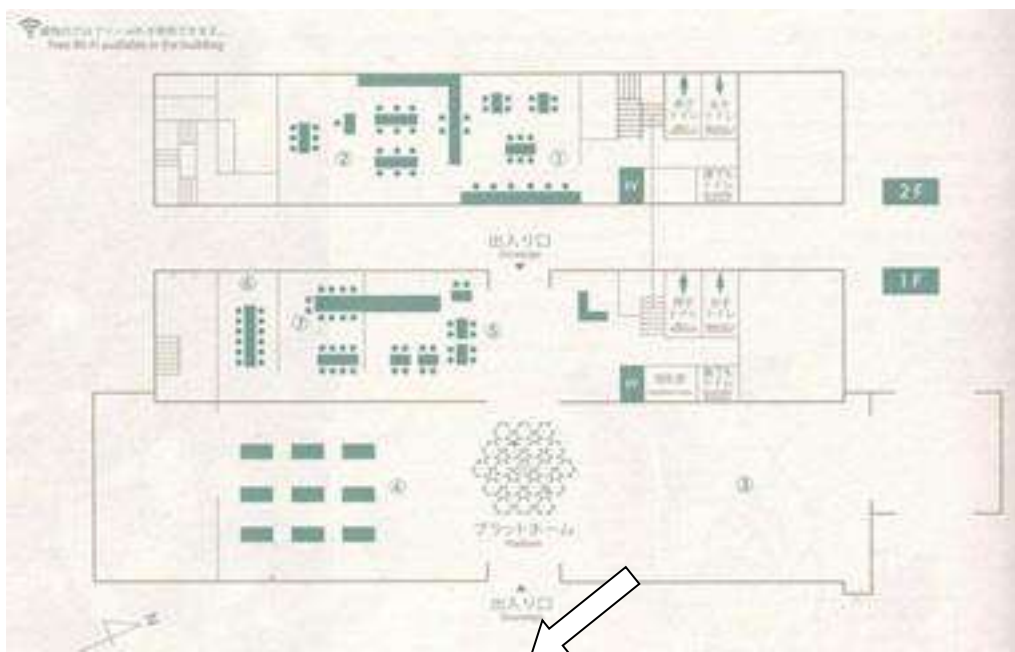
環境に関する図書の閲覧や、持参した弁当などの飲食が可能な休憩エリア



《所 感》

市域の8割が住宅地で、人口密度も高い武蔵野市であるが、ごみ処理についての過去からの経緯を思うと、市役所に隣接する当地が唯一の建設場所となったのが理解できる。

施設としては、最新の設備であり、周辺への配慮も感じられ、煙突がなければ、美術館や博物館と言っても通用する建物である。エコreゾートは旧施設を活用し環境学習のみならず、様々な学習施設として市民にひらかれており、当日も市民の姿が見られた。限られた場所での焼却処理施設や周辺整備のあり方について多いに学ぶことができた。



〈本報告書の作成については、先方よりいただいた資料及びHP等を参考とした。〉

令和8年7月17日

小野市議会議長 喜始 真吾 様

総務文教常任委員会
喜始 真吾

行政視察報告書

先般、実施しました総務文教常任委員会行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 令和8年7月8日（水）～令和8年7月10日（金）

2 視察メンバー

安達哲郎 藤原 章 川名善三 小林千津子 前田光教
山本麻貴子 山本悟朗 喜始真吾

3 視察先及び調査内容

（1）東京都荒川区（人口：約21万7千人、面積：10.16Km²）

防災・防犯カメラネットワークシステム整備の取り組みについて

大規模災害発生時にリアルタイムで被災状況等を確認し、避難指示等の即時対応を可能とする体制を構築するため、防災機能を搭載した防犯カメラを主要道路等に新規設置し、ネットワーク化されている取り組みについて視察した。

（2）埼玉県行田市（人口：約7万8千人、面積：67.49Km²）

乗合型AI オンデマンド交通「うきしろ号」について

乗合型オンデマンド交通を用いて、収益性の低い路線バスと既存のデマンドタクシーを統合し、全市民を対象に新たな市民の足を確保されている取り組みについて視察した。

（3）東京都武蔵野市（人口：約15万人、面積：10.98Km²）

武蔵野クリーンセンター及びむさしのエコreリゾートについて

市街地に位置するため、厳しい排ガス基準値をクリアし、高効率発電システムの導入、周辺公共施設への蒸気・電気供給といった環境の保全に配慮した施設か

つ自立・分散型地域エネルギー供給拠点である「武蔵野クリーンセンター」の取り組みと、隣接する「むさしのエコreリゾート」での環境啓発の取り組みを視察した。

荒川区役所にて



荒川区役所にて研修状況



4 調査結果

【第1日】

東京都荒川区

人口 217,000人 面積 10.16Km²

≪視察項目≫

防災・防犯カメラネットワークシステム整備の取り組みについて

≪視察内容≫

【防災・防犯カメラのネットワーク化およびAI防犯カメラの実証について】

1. 実証目的

災害発生時に迅速な被災状況の把握と避難指示等の対応や、緊急時案の早期発見・解決を実現するため、防災カメラの設置に加え、エリアを限定して防災・防犯カメラのネットワーク化および顔識別機能を搭載したAI防犯カメラの設置を試行実施し、その効果を検証する。

2. 実証概要

(1) 防災・防犯カメラのネットワーク化およびAI防犯カメラの有効性を検証する

① 防災カメラ（専用柱等含む）の設置（31台）

- ・災害発生時に速やかに被災状況を把握し、避難指示等につなげるため、区内全域の緊急輸送道路周辺に防災カメラを約500m間隔で31か所整備
- ・停電時でも稼働できるよう72時間分のバッテリーを搭載
- ・ネットワーク化による遠隔でのズームや360度操作が可能
- ・平時は防犯カメラとして活用するほか、防災訓練等を通じて災害時の運用体制を強化

② AI防犯カメラの設置（33台）

- ・行方不明児童や認知症の方の捜索など、緊急性の高い事案の早期解決を図るため、屋外では全国で初となる「顔識別機能」を搭載したAI防犯カメラの実証実験を開始
- ・実証エリアを日暮里駅から西日暮里駅周辺に限定、既存の防犯カメラをAI防犯カメラに交換、遠隔によるズームや360度操作が可能
- ・区内では重大事件に発展していないが、警察への問い合わせが多い行方不明児童や認知症の方の捜索において、提供写真と録音データを照合し、事案の早期解決を図る
- ・AI顔識別システムは先進的な取り組みであるため、本実証を通じてカメラの設置角度、天候、時間帯等が顔データの検知精度に与える影響を分析し、最適な設置場所を特定する

③ ネットワークシステムの構築

- ・防災カメラと実証エリアのAI防犯カメラをネットワーク化
- ・クラウド上で一括管理、庁舎の専用PCでの閲覧体制を構築

- ・防災カメラと AI 防犯カメラの故障確認（常時）
- ・遠隔での映像確認により、災害時や行方不明者搜索の対応を効率化

（２）実証機関

令和８年４月１日～令和９年３月下旬（予定）

（３）主な検証内容

- ・ネットワーク化による情報収集や共有時間の短縮効果（防災・防犯カメラ）
- ・クラウド上での一括管理による事務の効率化（防災・防犯カメラ）
- ・AI 顔識別機能の精度（設置角度、ズーム、天候等）（防犯カメラのみ）

３．今後の方向性

本実証で得られた効果や課題、必要性などを十分に整理したうえで、地域の実情に即した最適な運用を検討していく

４．設置総額と年間の維持費、国庫補助等の有無

設置総額：１８７，０９３，９９５円

維持管理費：約１，１２５万円（６４台）年間

防災カメラ（３１台）ネットワークシステムライセンス費

約１５万円／年×３１台＝４６５万円

AI 顔識別機能システムライセンス費

約２０万円／年×３３台＝６６０万円

国庫補助：９３，５４６，９９７円（補助率１／２）

⇒デジタル庁 新しい地方経済・生活環境創生交付金（デジタル実装型 TIPE １）

《所 感》

区内には、今回の実証実験を実施する６４台を含め、自治会が管理するカメラと併せて約１０００台のカメラが設置されており、加えて３台の青パトでの巡回も行われている。令和７年度は約１００件の行方不明者等の事案があったということで、全国第３位の人口密度ということもあるが高い効率で運用されている。

また、危機管理室で一括管理されており、警察からの派遣職員と協力しながら昨今、被害が著しい「匿名・流動型犯罪グループ」による詐欺の捜査にも活用されている。

首都圏と小野市では相当な地域性の違いはあるが、今後は AI の時代、小野市においても導入を検討すべきと考える。

【第2日】

埼玉県行田市

人口 78,000人 面積 67.49Km²

《視察項目》

乗合型 AI オンデマンド交通「うきしろ号」について

《視察内容》

- ・「自家用車がなくても安心して移動できる行田の実現」に向け、令和7年1月6日より運行を開始（道路運送法第21条許可による1年間の実証運行）
- ・令和8年1月6日より、道路運送法第4条許可による本運行を開始
- ・予約に応じて最適なルートを AI が選定し、同じ時間帯に同じ方向へ向かう利用者が乗り合わせる乗合型の公共交通 令和8年度当初予算⇒48,545千円
- ▶利用できる方 行田市に住民登録がある方（事前登録制）
- ▶運行日 月曜日～土曜日（日・祝日、年末年始は除く）
- ▶運行時間 午前7時30分～午後6時30分
- ▶予約方法 電話、Web、LINE、FAX
（利用日の7日前から乗車時間の45分前までに予約）
- ▶運賃
 - ・一般（下記以外の方） 600円
 - ・高齢者（75歳以上）運転免許証自主返納者 500円
※付添人1人まで500円で同乗可能（登録不要）
 - ・障がい者等、妊産婦の方、小中学生 300円
※障がい者等は、介助者1人まで300円で同乗可能（登録不要）
※妊産婦の方は、妊娠中または出産後1年未満の方
 - ・未就学児 無料
- ▶指定乗降場所
令和7年度末 785か所

乗合型 AI オンデマンド交通「うきしろ号」導入の経緯

市内循環バスは、利用者が少なく、以前から「空気を運んでいる」という声が多く聞かれており、利用者向けに実施したアンケートでは、運行本数が少ない、利用したい時間に運行していない、行きたい場所や地域まで運行していない、バス停までの距離が遠いなどで、デマンドタクシーについては、利用できる時間帯が短い、利用したい時間に運行していないという声が多く聞かれた。

これらに加えて、行田市の高齢化率は31.8%で県平均の1.2倍と高く、生活の足としての地域公共交通へのニーズがますます見込まれていた。

また、2024年4月から自動車運転業務に従事する者の時間外労働の上限規制が適用

される、いわゆる「**2024 年問題**」により、ドライバー不足が深刻化していること、現行の市内循環バスでは利用者も少なく、収支率が悪くなっている路線があることなどから公共交通の再編が必要との判断に至った。

《再編のイメージ》

- ① 市内循環バス運行事業 ⇒利用者が多く、輸送力が必要な路線は維持
② 〃 ⇒利用者が少ない路線は、オンデマンド交通で吸収
③ デマンドタクシー運行事業 ⇒オンデマンド交通へ転換

令和6年12月28日運行終了

- ④ 免許証自主返納者支援事業 ⇒ タクシー利用券の交付事業から、オンデマンド交通
タクシール利用助成 の割引制度へ転換

令和 6 年 12 月 27 日受付終了

②③④⇒乗合型 AI オンデマンド交通運行事業として令和 7 年 1 月 6 日より運航開始

《所 感》

運行事業者は1社のみで、セダン型（定員4名）1台、ワゴン型（定員6名）2台、車いす対応車（定員8名）1台で展開しているが、会社にも訪問して実際の予約の受付状況や、機器類に表示される内容について詳細な説明を受けた。

今のところ、円滑な運行状況とのことで、小野市においても 10 月から実証運行事業に取り組む予定である下東条地域について、ある程度の成果が見込まれるのではと感じた。

行田市長より歓迎のあいさつ



【第3日】

東京都武蔵野市

人口 148,710人 面積 10.98Km²

《視察項目》

武蔵野クリーンセンター及びむさしのエコreリゾートについて

《視察内容》

1. 武蔵野市の概要

東京都のほぼ中央、新宿の都庁より西に12km、東西6.4km 南北3.1km

人口密度は全国2位（東京23区を除く）*令和8年5月1日現在

市域の80%が住宅地域で、吉祥寺・三鷹・武蔵境の3駅を中心に生活型の産業が集積している。住みたい街ランキングで吉祥寺が常に上位にいる。

2. クリーンセンターの歩み・運営協議会

《初代クリーンセンターの建設経緯》

1955年：武蔵野市と三鷹市で、武蔵野三鷹地区保健衛生組合を設立。

1958年：ふじみ焼却場を三鷹市新川に建設し、共同でゴミ焼却を開始。

1970年：人口増加とともにゴミが激増し、隣接する調布市民から煙・騒音公害防止の陳情あり。

1971年：炉の操業停止を求め、ピケにより武蔵野市のゴミ搬入を阻止。

1973年：「武蔵野市内にゴミ処理施設を設ける方向で努力する」と市長が言及し、ピケが解除される。（市内建設へ市民の協力を求める）

⇒用地選定の検討

市民プール、市営グラウンド、都立中央公園、都立小金井公園を候補地として、各候補地の住民代表、一般市民、専門家で構成される委員により検討が進められる。

➡のちに「武蔵野方式」と呼ばれる市民参加の礎になった。

1980年：建設用地を市営グラウンドに決定⇒周辺住民の苦渋の決断

1981年：「クリーンセンター・まちづくり委員会」発足

・環境アセスメント、建設仕様、排ガス基準、周辺土地利用、操業協定、運営協議会の設置などを検討

1984年：旧クリーンセンター竣工 稼働開始（～H28年まで32年間）

「武蔵野クリーンセンター運営協議会」発足

《運営協議会》

1984年12月設立（39年間）

目的：クリーンセンターの運営などに関する諸問題を協議するとともに、地域環境の整備、福祉の増進を図る。 **施設の安全・安心な稼働の監視役**

構 成：市民側委員 9 名、市側委員 2 名

（事務局：ごみ総合対策課クリーンセンター）

運営費：市からの 100%補助【年間 100 万円】

活 動：①クリーンセンターの運営状況の確認

協議会・・・年 6 回（運転状況の報告等）

②広報活動

広報誌（年 2 回）の発行

③環境の整備、維持及び福祉の増進

イベント（年 1 回）⇒ごみや環境問題、クリーンセンターの関心を持ってもらうための啓発活動

④その他、目的を達成するために必要な諸活動

委員研修（年 1 回）：施設見学等を通じた委員の研鑽

バス研修（年 1 回）：周辺住民への福祉活動

《新クリーンセンター建設事業の概要》

【平成 17 年度】 旧武蔵野クリーンセンター精密機能診断実施

- ◆ 主要設備の耐用年数より、建て替えまたは大規模改修の必要が報告され、施設を運営しながら大規模改修（更新）は極めて困難・改修費用も多額になることより建て替えが有利との見解。

【平成 20 年度】 （仮称）武蔵野クリーンセンター施設基本構想

- ◆ 現施設の建設経緯等の過去を踏まえ、施設建て替えに向けた基本的な考え方をまとめた。

【平成 20 年度～21 年度】 新施設まちづくり検討委員会

- ◆ 建設用地の選定、新施設の在り方、周辺地域のまちづくり等を検討。

【平成 22 年度】 新施設基本計画策定委員会

- ◆ 新施設の基本仕様（規模・公害防止基準・処理方式・煙突高さ・アセス項目・事業手法）を検討。
- ◆ 平成 23 年 7 月に住民説明会及びパブコメを経て、「新施設基本計画（基本仕様）」を策定。

【平成 22 年度～31 年度】 新施設・周辺整備協議会（第 1 期～第 4 期）

- ◆ 新施設に備えるべき機能・周辺まちづくり・建築デザイン・エネルギー供給方式などを検討。

【平成 23 年度～24 年度】 新施設事業者選定委員会

- ◆ 要求水準書（案）・実施方針・事業者選定基準作成・事業者提案の審査、評価等。

【平成 24 年 3 月～25 年 7 月】 PFI 法に準拠した事業者選定⇒契約

- ◆ 実施方針・特定事業の選定・入札公告・審査講評・落札者決定・アセス告示縦覧・各種契約等。

～事業概要～

- 事業名：新武蔵野クリーンセンター（仮称）整備運営事業
- 入札方法：地方自治法に基づく総合評価一般競争入札
(第 234 条第 3 項及び地方自治法施行令第 167 条の 10 の 2 第 1 項に基づく)
- 事業方式：DBO 方式（設計＋建設＋運営 20 年間の包括【公設民営】）
- 建設期間：平成 25 年 7 月～令和元年 6 月 *焼却施設竣工は平成 29 年 3 月
- 総事業費：（建設費）111 億 2,468 万円
（運営費）105 億 6,050 万円⇒20 年間
- 焼却施設：全連続燃焼ストーカ方式 120t/日（60t/2 炉）
*不燃・粗大ごみ処理施設併設 破碎・選別式 10t/5h
- 余熱利用方式：ごみ発電＋所内及び近隣公共施設への電力・蒸気利用
- 発電設備概要：【ごみ発電】抽気復水タービン 最大出力 2,650kw
【ガス・コジェネ】ガスタービン 最大出力 1,500kw
- 年間計画発電量：約 15,000Mwh *基準ごみ時
- 計画エネ効率：【発電効率】20.5%
- 建設事業者：荏原環境プラント(株)、鹿島建設(株)
- 運営事業者：(株)むさしの E サービス（特別目的会社）*代表企業 100%出資
- 建設工事管理：(株)日建設計（技術支援：公益財団法人全国都市清掃会議）

～施設のコンセプト～

- ① 環境の保全に配慮した安全・安心なまちづくり～地球温暖化対策を意識して～
 - 全国トップレベルの環境排ガス基準値の設定および高効率発電システムの導入
 - ・高温高压ボイラ付き焼却炉・低温エコノマイザ・乾式重曹排ガス処理システム
 - ・最新鋭の焼却プラント設備にて「小規模ながら 20.5%の高効率発電」を実現
 - 【ごみ発電】抽気復水タービン発電 最大出力 2,650kw（約 15,000Mwh/年）
 - 立地条件を生かし、「市役所など隣接する公共施設へ熱電を供給（電気・蒸気）」
- ② 災害に強い施設づくり～H23.3.11 東日本大震災を契機に～
 - 耐震安全性の分類は「構造体Ⅱ類（重要度係数 I =1.25）」を満足する設計
 - 災害・非常時にも対応できる「自立・分散型地域エネルギー供給拠点」
 - 【ガス・コジェネ】ガスタービン発電 最大出力 1,500kw
- ③ 景観及び建築デザインに配慮した施設づくり～迷惑施設からの脱却を目指し～
 - 武蔵野の雑木林をイメージした景観及び建築デザイン

■建物の高さを15mに抑え、凹凸をなくしたコンパクト設計

④ 開かれた施設づくり ～迷惑施設からの脱却を目指し～

■予約なしで自由に見学できる見学者コース・自由に入れるオープンスペース

⇒環境イベント「エコマルシェ・gomi pit BAR・子どもワークショップなど」を開催

《むさしのエコreリゾートについて》

1. 設置目的

本施設は、気候変動や地球温暖化を踏まえ、ごみをはじめ、資源、エネルギー、緑、水環境、生物多様性など多様な環境啓発の拠点施設として、また、環境に関する総合的なネットワークの拠点施設として、武蔵野クリーンセンター敷地内の旧クリーンセンター管理棟及びプラットホームを再利用して整備する。

(延べ床面積：2,184.16 m²)

2. 基本理念

本施設では、日々の暮らしの中に環境問題があることを知り、その気づきを環境に配慮した行動に結びつけ、一人ひとりの行動をつなぎ、地域ぐるみの取り組みへと広げ、さらに市域全域へと拡大し、よりよいまちづくりを目指す。

また、これらを目指すことでSDGsの達成に貢献する。

3. コンセプト

「みんなでつくろう！子どもたちに未来をつなぐエコプラザ」

キーワードとして、

共 共に参加する

創 新しい価値を創り出す

継 子どもたちに未来を引き継ぐ

場 交流できる場をつくる

4. 実施事業

ア イベント、講座、ワークショップ

イ 常設の体験コーナー

ウ 展示、図書

エ 職場体験、施設見学

《所 感》

武蔵野クリーンセンターは、2017年にグッドデザイン賞を受賞した市街地の中にあるおしゃれな建物で、「まちに溶け込む次世代型市民施設」というテーマで建設され、周辺の景観に見事に溶け込んでいる。

機能としては、ごみを焼却した熱を利用して電気と蒸気を生み出し、施設内で使用するほか、周辺公共施設にも供給しており、地域エネルギー供給拠点としての役割も担っ

ている。

また、災害に強い中圧ガス管から供給を受けているガスコージェネレーションを備え、ごみ発電の補助装置としての機能、災害時の再稼働装置としての機能も持っており、市民参画型の先進的な取り組みで、大いに参考になった。

むさしのエコ re リゾートは、武蔵野市のごみと市民参加の歴史が詰まった旧クリーンセンターの事務所棟・プラットホームを利用し、関わった方々の思いを共有して、多様な環境啓発の担い手として活躍できるように支援していく施設の実現を目指すとしており、実践と啓発という理想的な施設だなと感じた。

武蔵野クリーンセンター周辺と配置図



むさしのエコ re リゾート



武蔵野クリーンセンター

